はしど

練馬区立橋戸小学校
学校だより　第４号
令和元年　７月　３日
校　長　青木　俊哉

http://www.hashido-e.nerima-tky.ed.jp/

☆学校教育目標　考える子・思いやりのある子・たくましい子

体験を通して学ぶ

校　長　青　木　俊　哉

６月の下旬、５年生を引率し、軽井沢移動教室に行ってきました。

二日目の活動を終え宿舎であるベルデ軽井沢に戻った所で、大事な“関門”があります。関門を通過するミッションは、**“昼の弁当のゴミをきちんと分別して片付けよ”**というものです。「何だ、そのくらいのことか。」と思われたかもしれませんが、練馬区とは分別の基準や分け方も異なり、きちんと揃えて片付けないと合格できませんからひと苦労、５１人が行列になりました。分別の仕方は以下の通り。①生ゴミ　②きれいなビニール袋　③プラスチックの容器（パック３種類）　④紙ゴミ類　⑤わりばし　⑥輪ゴムの６分類です。東京２３区では、清掃工場に高温焼却が可能な焼却炉が導入され、可燃ゴミとして処理できるものが多くなっていますので、細かく分けての分別に戸惑いを見せながらも、職員の指示や指導員の見守りの下、全員が分別を完了し、無事“関門”を通過できました。子供たちに最後までやり切らせるには、待つ必要があります。大人が手を出してしまえば簡単なことですが、それでは子供たちに力が付きません。ここで大人がすべきことは、やり方を教え、声をかけ、見守り、できないことは改めて教え、最後までとことん付き合うことです。このベルデで見たひとコマは、たわいのないことのようですが、子供を育てる上での大切な要素があると実感しました。

また、初日には林業体験も行いました。ここでは、「ベルデの森」を管理されている方からお話を聞き、森林の役割や大切さ、維持管理の難しさをつかんだあと、間伐材の伐採を見せていただき、伐採した木を自分達も切る体験をしました。伐採は、森林を守るため、森林のよい状態を維持するために行うことを知り、間伐材の有効利用の一つとして、慣れない手つきで鋸を引き、間伐材を材料にフォトスタンドやコースターなどを作りました。

プラスチックゴミの海洋汚染や環境破壊が世界的にも問題となる時代。軽井沢は、ちょうど先月 G20 サミット・地球環境に関する関係閣僚会議が開かれた場所です。その地へ赴き、自分達も環境を意識した活動に取り組み、実践する。まさに、今年の移動教室ならではの学びの機会と言えます。現地で、関わる方やその道の達人から、直接聞いたり見たりできること、自分達も実際に何かやりながら，やらせていただきながら学ぶことには、大きな価値を見出すことができます。

環境に関する学習は、たとえば４年の社会科でゴミの処理や水の仕組みを学びます。清掃工場の見学や収集車の観察を通して、ゴミの行く先、関係機関の役目や働く人々の努力や苦労などを調べます。上・下水道の仕組みやきれいでおいしい水を維持するための活動なども学んでいきます。また、総合的な学習の時間も使って発展的に学習し、各自の課題について調べたり、発表したり、体験したりすることもあります。さらに、５年でも、産業の学習では環境を意識した製品作りを学んだり、環境破壊や復元の取組、森林資源の保全・保護等を学んだり…と、様々な学習場面があります。このような学校（教室）での学びと、今回のような体験を伴う学びをうまくかみ合わせることで、理解したことを実行・実践につなげる、そんな学びのスパイラルが築けると嬉しく思います。

移動教室は“旅行”ではありません。体験を通して学び、実践を通して実感し、様々なことを身に付けて帰ってくることを願って取り組みます。だからこそ、毎回の移動教室で、**「自立・挑戦・協力・感謝」**の４つの言葉を子供たちに紹介し、意識させています。学ぶことや身に付けることは、学習に限りません。生活力や人との関わりも、宿泊を伴う機会だからこそ、学んでほしいことです。お家とは違う環境、普段ならつい頼りにしてしまう親や家族のいない生活ですが、多少の不便はむしろ好都合と考えます。自分がやるしかない状況の下で、子供たちの自立につながる学びを実感させたいと思います。

練馬区は、海・山それぞれ２カ所ずつの計４カ所に少年自然の家をもち、小・中学生の宿泊学習に使われています。（もちろん区民利用もできます！）原則小学校５・６年で海・山双方の施設を利用するよう計画されていますので、こういった機会を生かして、**“体験的な学び”**が充実するよう努めてまいります。

この便りがお手元に届く頃、今度は６年生を連れて、千葉県の岩井に出かけています。